

第148回経営協議会議事録

日 時 令和6年9月20日（金）15時～17時00分

場 所 第一会議室（Zoomによるビデオ会議併用）

出席者（学外委員）

門脇委員、小間委員、小向委員、長友委員、端山委員、平井委員、森（正）委員、
森（淳）委員、森口委員、安田委員

（学内委員）

田野学長、西岡理事、村松理事、大家理事、笹井理事、阪口学域長、仲谷研究科長
（オブザーバー）

小池副学長、美濃島副学長、市川監事、美馬監事

議 題

議事録報告承認

1. 第147回経営協議会議事録報告承認 (資料①)

審議事項

1. 国立大学法人ガバナンス・コードへの対応について (資料②-1～4)

報告事項

1. 人事院勧告について (資料③)
2. 令和5事業年度財務諸表の承認について (資料④)
3. 令和6年度資金運用について (資料⑤)
4. 令和7年度概算要求について (資料⑥)

討議事項

1. 大学を取り巻く環境が激変・日本版 Industrial PhD の推進 (資料⑦-1～2)

議 事

議事録報告承認 第147回経営協議会議事録

田野学長から、第147回経営協議会議事録（案）について説明があり、これを承認した。

審議事項 1. 国立大学法人ガバナンス・コードへの対応について

笹井理事から、「国立大学法人ガバナンス・コード」策定の経緯と本年7月1日付けの一部改訂の内容について説明がなされた後、本学の適合状況について、ガバナンス強化の観点から副理事を設置したこと、副学長を増員したこと、監事のうち1名が常勤となったこと、研究インテグリティに関する記述を加えたことなどの点検結果の説明があった。また、例年同様に、本会議の意見と改めて行う意見照会の際に示される

意見を反映させて、ガバナンス・コードへの適合状況に関する報告書を、10月末に大学ウェブサイトにおいて公表する予定である旨の説明があり、これを了承した。

主な意見は次のとおり

- (学外委員) 研究インテグリティについては、どのような経緯で学内体制を強化することとしたのか。
- (学内委員) 文部科学省からの指示により体制を整えることになったが、現状として研究不正、利益相反、データ管理等はきちんと管理していた。しかし、それぞれ別々に管理を行っていたため、すべての情報を一元管理する体制を構築した。

報告事項 1. 人事院勧告について

笹井理事から、令和6年人事院勧告の概要について報告があった。

主な意見は次のとおり

- (学外委員) 法人化以降に運営費交付金には反映されない中で、人事院勧告に対応するために大変な努力をしてきたと思う。今回の人事院勧告は非常に大きな改定があり、積算すると大変な額になると思うが、対応は可能なのか。
- (学内委員) 本学の人事院勧告の対応については、昨年度まで引き下げ、引き上げのどちらについても国家公務員の給与に準拠する形で行ってきた。本年度については、本学の厳しい財政状況を踏まえて検討していく必要があると考える。
- (学内委員) 国立大学協会が令和6年6月に物価高騰や円安の影響で財務状況が悪化しているとして、「もう限界です」と訴える緊急の声明を公表し、運営費交付金の増額を求めた。運営費交付金が増えない状況であっても本学は今まで国家公務員の給与に準拠する形できちんと対応してきたが、今回は非常に厳しい状況の中で検討しないといけない。

報告事項 2. 令和5事業年度財務諸表の承認について

笹井理事から、令和5事業年度財務諸表について、8月30日付で文部科学大臣に承認された旨の報告があった。

報告事項 3. 令和6年度資金運用について

笹井理事から、令和6年度の資金運用の状況について報告があった。

報告事項 4. 令和7年度概算要求について

笹井理事から、令和7年度概算要求について報告があった。

討議事項 1. 大学を取り巻く環境が激変・日本版 Industrial PhD の推進

田野学長から、最近の大学を取り巻く環境について及び日本版 Industrial PhD の推進について説明があり、意見交換を行った。

主な意見は次のとおり

- (学外委員) 博士を増やしたいという動機は理解できる。日本は修士も他国より少ないので、修士を増やすことも考える必要がある。修士が増えれば長期的には博士も増えやすくなるのではないか。
- (学外委員) 日本版 Industrial PhD の推進については、非常に興味深い。これを戦略的に進めるに

は、総合科学技術・イノベーション会議が肝になるのではないか。

(学外委員) ドイツは、PhD をもっていない人が工学系の会社で代表になることはまずありえないが、日本の会社は PhD を持たない方が経営者となっていることが興味深い。

なぜ、PhD がなければならないのかを考える必要があると思う。

新しいところに進む時、どこに進むと可能性があるかということを経験的に学んできて、チャレンジするためにはどうしたらよいかを色々な研究からサーベイし、新しい方向にはどのような方向があり得るかということを経験的に分析することができるスキルを身につけたのが、PhD だと思っている。

(学内委員) Industrial PhD の話は面白いと感じた。大学として真摯にこのようなことを改善していこうという取組みをしているということに非常に感銘を受けた。

[配付資料]

- ①. 第147回経営協議会議事録(案)
- ②-1. 令和6年度における「国立大学法人ガバナンス・コード」への適合状況について
- ②-2. 国立大学法人ガバナンス・コード
- ②-3. 「国立大学法人ガバナンス・コード」への本学の適合状況について<対応表>
- ②-4. 【公表様式】国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書(案)
- ③. 人事院勧告について
- ④. 令和5事業年度財務諸表の承認について
- ⑤. 令和6年度資金運用について
- ⑥. 令和7年度概算要求について
- ⑦-1. 大学を取り巻く環境が激変・日本版 Industrial PhD の推進
- ⑦-2. 日本版 Industrial PhD を進めたい(全国版、東京版、地域版)